

# 福部地区 地域づくり懇談会 議事録

1 日 時 平成24年11月27日(火) 19:00～20:50

2 会 場 福部町中央公民館

3 出席者 地元出席者 39名  
市側出席者 20名

竹内市長、深澤副市長、木下教育長、羽場総務部長、松下企画推進部長、堀防災調整監、武田経済観光部長、大島都市整備部長、堀尾農林水産部次長、松ノ谷教育委員会事務局次長、久野中山間地域振興課長、富山危機管理課参事、尾室企画推進部次長

<福部町総合支所>福田支所長(司会)、坪内副支所長、山本市民福祉課長、宮崎産業建設課長、谷本地域振興課課長補佐

<事務局>谷村協働推進課主任、岡田協働推進課主任

## 4 「地域防災計画の見直し」について

スクリーンに基づき説明(危機管理課参事)

## 5 「協働のまちづくり」についての報告

(地区公民館長) ※スクリーンに基づき説明

きょうは中学生ボランティア「YOUあんどI」の地域活動について、ご報告をいたします。約1年間、中学生の皆のグループで地域活動を進めてきましたので、それについてのご報告をさせていただきたいと思います。まず、地域コミュニティ計画の中に、青少年の健全な発達を促進するものということで位置づけをしています。なんとか小中学生に地域や公民館行事への積極的な参加をしていただきたい、その中で地域社会とのつながりを深めていただきたいなということを目指しております。

活動のきっかけですけれども、平成23年度の福部の公民館まつりで、小中学生を主体にした「ふくべこども店」というのを出してもらおうということで、店長さん、店員さんの募集をかけました。対象は小学校4年生以上ですが、お店は自主運営で、内容につきましても自分たちで考えてもらうということで、何をやるよとかたちでの募集はいたしませんでした。また、もしその中で収益等があれば、東日本大震災の支援募金に回そうということで募集をかけております。

実際の実績ですが、募集した結果、最初は中学生が1人しかいませんでした。それで、なんとか友達を連れてくるように頼んだりしたら、最終的には中学生6人と小学生4人が参加してくれました。その中で検討して、先ほど出ました「YOUあんどI」という名前を決めたようです。それで、何をやるかということについては、子どもたちは焼きそばをやりたいとか、食べ物を出したいというような希望を持っていましたけれども、いろいろ話をした結果、ビーズを材料にしたストラップを作って販売することにしました。放課後や休日に公民館に集まってもらって、販売用のストラップを手

作りで子どもたちがやったものです。実際に公民館まつりで、土曜日にこども店を出しました。白いテーブルクロスに並んでいるのがストラップです。これには中学生しか写っておりませんが、10人も入りきれないので、小学生には公民館事業の方のお手伝いをさせていただきました。保護者のかたにも多数来ていただいて、午前中で完売いたしました。それで翌日、急きょ社会福祉協議会の会長さんに公民館に来ていただきまして、東日本大震災募金に協力ということで、社会福祉協議会を通じて寄付をしました。

公民館まつり以降に子どもたちの話を聞いてみると、地域と関わりを持った活動をまた続けたいという希望がありました。その当時、主力は中学2年生でしたから、せいぜいあと1年弱かなという感じでしたけれども、とりあえず2月12日に開催する福部町のむらづくり推進大会で進行係である

とか受付を、あるいは3月4日の福部町の敬老会で進行係やステージ係を務めていただくということで話し合いもしました。それから今後も地区公民館の事業で、皆が希望をする事業に取り組むことにしました。私どもも知らず知らずのうちに中学生を対象から除外していたという反省がありまして、中学生にも参加していただけるような事業もということで、計画を話し合っているところです。

むらづくり大会の活動ですけれども、6人のうち男子生徒が2人いまして、男子生徒には男女共同参画会議のおばさんたちと一緒に受付をしていただきました。女子生徒は当日3人来ておりまして、入れ替わりで進行係をしていただきました。次に、3月4日に敬老会がありまして、このときは6人全員が揃ってくれました。進行係を女子生徒4人が交代でしました。男子にはステージ係の補助ということで、椅子を運んだり器具を上げたり下ろしたりという手伝いをさせていただきました。昼はお酒が出るものですから、お酒の席はまずいよということで、中学生は午前中でお役御免ということにさせていただきました。

24年度の取組みについて、どういう関わりをしていくかということで、春休みに公民館に集まっていただいて、話し合いをしました。そこで、夏休みの公民館事業の企画運営に深く関わってもらおうというなかで、中学生たちが希望した事業として天体観測と、納涼肝試しの2つをやることにしました。それからもうひとつ、7月8月に各地区で納涼祭が開催されますが、それにもできれば協力をしたいというような希望がありまして、たしか1地区か2地区か計画をさせていただいていると思っております。天体観

### こども店の活動1



手づくりのビーズのストラップを販売しています

### こども店の活動3



売上げは社会福祉協議会を通じて東日本大震災支援募金に協力しました

測の活動ですが、これは地区のらっきょう加工場の広場をお借りしました。星の大きさの説明で講師さんの補助をしてもらったり、資料配布をしてもらったりしたんです。ちょっと見にくいんですが、太陽の大きさと、土星と地球の大きさを比較して皆さんに見てもらっているところです。講師にはさじアストロパークの宮本さんに来ていただきまして、天体望遠鏡を通じて勉強したところです。

次に8月2日、納涼肝試しをやりました。この事業はすべて中学生が主体で開催しました。企画会議からお化けの関連、それから肝試しの会場設営や会場の下から順々に入場者を入れていく会場整理をしたり、また自らお化けの役をしたりということで、非常に活躍をしておりました。私もびっくりしましたけれども、親子で参加した人も多くおられまして、約130人のかたに参加をしていただきました。いろいろ回ってきまして、最後にはお化けと記念写真撮影。それで、呪いのお札というのを皆さんがありがたいていただいて帰られたようであります。お母さんがたも参加をしていただきまして、同じように呪いのお札をもらっておられます。

最後に今後の課題と目標ということですが、中学生の実質の活動期間というのは2年ぐらいです。さすがに3年生は2学期ともなれば高校受験が控えていますから、出たいと言われても高校に入ってから来てくれということで、主力は2年生になっています。そういうわけで回転の問題がありまして、会員登録が困難であるなというふうに感じております。それから、学年によってこの地域活動に対する子どもたちの温度差がありまして、なかなか会員数が安定しません。去年は中学生が2年生の2人しかいませんでしたけれども、3年生の退会後に増えまして、現在8人になっております。それから、むらづくり大会の敬老会などの関わりは、非常に町民のかたには好評でありました。今後も続けていきたいと思っております。ことしの場合、すでに11月11日でしたか、公民館まつりの共同文化芸術発表会で進行係とステージ係の補助をしていただきました。もうすでに新しいメンバーで活動はスタートをしております。それから、まだこれは詳しい話をしていませんけれども、公民館事業の企画運営にも同じように関わっていただくことを期待しているところです。

この中学生のボランティア活動がスタートしてからわずか1年ちょっとでありまして、これを発表することがいいのかどうか迷いましたけれども、自分たちの今後のノルマとか、気持ちを前に向けたものを示すためにも、これから地域の皆さんにも子どもた

## 天体観測の活動1



星の大きさの説明で講師さんの補助、他に参加された人へ天体観測の資料を配りました

## 納涼肝試しの活動6



お母さんたちも参加して、呪いのお札をもらっています。

ちとの連携を理解して支援をしていただけるように、きょうの発表ということにさせていただきます。

## 6 地域の課題についての市長等との意見交換

(支所長)

現在、市内多くの地域では児童数が減少しておりまして、ここ福部でも同様の状況にあります。特に福部の地域では小中学校1校ずつという事情がありまして、福部地域に深く関わる問題として今回、校区審議会の審議状況、それから将来に向けての考え方について協議項目として出されたものです。

### 鳥取市校区審議会における審議経過について

近年、著しい少子化により平成25年度には用瀬中学校と佐治中学校が統合し、新しく千代南中学校として誕生すると聞いている。

当福部小・中学校においても、今年度小学校の全児童数158名（1年生から6年までそれぞれ21、24、25、29、34、25名）、中学校の全生徒数81名（1年生から3年までそれぞれ30、28、23名）となっており、今後も減少傾向が続くと見られる。

このため、将来的に他の学校と統合となれば福部町に活気が失われはしないか、また親の経済的な負担が増えるのではないかなど、統合が町民の間で危惧されていることなどから、現在までの「鳥取市校区審議会」における審議の経過について伺いたい。

※福部町としては、過去の地域づくり懇談会において、将来小・中一貫校を要望しており、また「福部小・中学校は無くさない」旨の回答を市長及び教育長から得ている。

<担当部局の所見等>

#### 【教育委員会事務局】

現在開催している鳥取市校区審議会の審議の中で、本市の学校については、6学級～12学級を「標準規模」としており、これを下回る小規模校の問題について、本市の学校の最大の課題と位置付けて対策を審議しているところであり、平成25年10月には全市を対象とした最終的な答申をとりまとめる予定です。

小規模を解消するための方法としては、学校統合や小中一貫校への移行などの方法があり、個々の状況に応じて検討する必要があります。

福部地域の学校については、小中ともに小規模であり、特に中学校が3学級であることから、対策を検討すべきであると認識しています。一般的には、中学校の場合は、発達段階に応じた交友関係の充実や部活動の問題等を大きな要素として捉えておりますが、福部の場合、小学校、中学校各1校であり隣接関係にあることや、他校との距離なども考えれば、小中一貫校という選択肢も含めての検討になると考えられます。

ただし、小中一貫校は、統合と違って、「どのような児童・生徒を育てるために行うのか」「どのような学校にするのか」などを地域の皆さんと共に検討し、ビジョンを描



いていくことが不可欠であります。また、充実した教育を行っていくためには、開設後も継続して地域の協力をいただきながら運営していく必要があります。

よって、まずは小中一貫校についての検討をしっかりと深めていき、地域全体の機運を高めていくことが必要であると考えます。

(教育長)

鳥取市の校区審議会の審議経過ということですが、平成21年度から23年度までの第10期の校区審議会、これは小学校中学校の学校配置、そして校区の設定についての中間報告を行いまして、学校配置と校区設定に際し、基準となる3つの要素、標準規模、それから通学に関する基準、適正配置をまとめて課題を整理したところです。現在第11期の校区審議会が開催されておりまして、ここではこれまでの課題を整理したり、地域全域の、あるいは2つの学校の状況の把握、それから具体的な課題を抽出したりして、再編の方向性の審議をしていただいております。特に直面している課題として、3つ掲げておりますが、過小規模学校のあり方、つまり6学級を下回る学校ですね、この標準規模に満たない学校について、最大の課題と位置付けて、対策を審議していただいているところがあります。この最終的な方針については、来年度平成25年の10月には答申をいただくことになっております。

ところで、この小規模を解消していくための方法としては、学校統合あるいは小中一貫校への移行という方法がありまして、それぞれ個々の学校の状況に応じて、

## 1. 第10期校区審議会(中間報告)の概要

(H21.8~H23.8)

◆学校配置と校区設定の基準となる3つの要素◆

### ①標準規模

・小学校・中学校とも「6学級～12学級」

### ②通学に関する基準

・「小学校:4km、中学校:6km」を基準  
・通学に要する時間を1時間以内  
・交通手段や安全性も考慮

### ③適正配置

・地域の特性や歴史、地域コミュニティ、  
学校施設改修等計画を含めた総合的な判断

## 2. 第11期校区審議会の審議

(H23.10~  
H25.10)

### ①これまで(審議途中)

・第10期で設定した基準に基づき課題を整理  
・全市域・全学校の状況把握  
・具体的な課題の抽出と再編の方向性を審議

### ②直面している課題

・過小規模学校のあり方について  
・学校と地域の関係・調整について  
・学校配置と通学距離について

### ③これから(予定)

・審議した内容を「中間とりまとめ」として周知  
・具体的な学校、校区、地域の課題抽出とその対策  
・地域意見等を含めて精査し、平成25年に答申

## 3. 福部地域では

### ①課題の区分 学校規模の課題(過小規模学校)

(特別支援学級を除き6学級未満の学校およびこれに準ずる規模の学校)

・小規模化により教育上の問題が発生する(又は懸念される)

### ②現状と課題 福部小学校(6学級 158名)

※平成24年5月1日現在

福部中学校(3学級 81名)

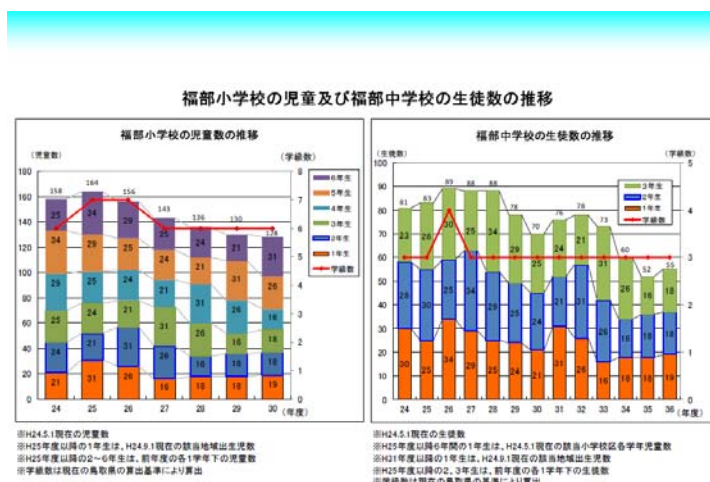
・将来的にも減少傾向となる見込み  
・地理的に他の学校との距離が大きい  
・中学校区内の小学校が1校

### ③対応

・地域で課題を認識し、十分に議論して方向性を探っていくことが望まれる

これは検討する必要があります。

福部地域の学校については、小学校中学校ともに小規模ですが、特に中学校が3学級であるということは、対策を検討すべきであると認識をしております。特に中学校の場合は、発達段階に応じた交友関係を充実していくことが大切です。併せて、よく言われますのが部活動の問題ですね。数が少ないとなかなか部活動がという問題もありますが、福部の場合、小学校中学校が各1校でありまして、しかも隣接をしております。そういうふうなことや、中学校ですと隣の中学校とかなり離れているので、他校との距離との関係を考えていけば、小中一貫校という選択肢が考えられると思っております。ただ、小中一貫校は統合と違いまして、どのような子どもたちを育てていくのかとか、あるいはどういう小中一貫校にしていくのかということ、地域の皆さんと一緒に検討していただくことが大変重要だということになります。もちろん充実した教育を行っていくためには、学校が開設されてからも継続して地域の皆さんがたの協力をいただいで運営をしていかなければならないのです。よって、まずはこの小中一貫校についての検討をしっかりと深めていかれて、地域全体の機運を高めていくことが必要ではないかなと考えているところです。



(地区会長)

この質問は区長会の方で確認という意味で出させていただきました。教育長さんから将来的には小中一貫校ではというようなお話をいただきました。福部町では小中一貫校であるとかにつきましては、ごく一部で話をしておるのが現状です。まだ福部町全体にこういうものを問題提起して、話を進めるといった段階には至ってないわけです。ですが、このような現実があるのは確かですので、今後福部町におきまして、小中一貫校にするのかどうするのかというような議論をしていきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

(教育長)

いま校区審議会ですらいろいろと議論をさせていただいております。ただ、会長さんがおっしゃったように、やはり地域の皆さんや保護者の皆さんで、そのあたりをしっかりとご議論をいただくことが大事ですし、私もそれを前提としてお話をしているわけです。よろしくお願ひします。

(地元意見)

回答の中に、小中一貫校になった場合、「開設後も継続して地域の協力をいただきながら運営していく必要があります」と書いてあるわけです。今でも小学校と中学校と、ある程度共通しているわけですが、一貫校になりますと、特別にどんなことがあるのでしょうか。具体的にどのような協力があるのか、イメージがちょっと。今後こういうことを検討するのが必要だとか、何かあればお願いします。

(教育長)

新しい学校を作ったときには、いろいろな動きもします。そんな中で、現在でもさまざまなかたちで地域の皆さんから応援をいただいているのは、私も十分承知しております。ですから、さらなるものがここに要するという意味ではありません。新しい学校ができたときに、これまでと違うものがそこに生まれてくれば、当然皆さんがたのさらなる後押しというのは要るでしょう。従来のようにしっかりと学校の応援をお願いしますという意味合いです。そのあたりご理解を。

(竹内市長)

小中一貫校が、ひとつの考えられるかたちとして議論されています。小中一貫校というのはたしかに教育上いろんなメリットもあると思います。小学校と中学校の間の継続性というか、続きが非常に良くて子どもたちの教育上もいろんな配慮ができるとか、あるいはいまは小学校でも英語を教えるということになっていますが、そういう教育について、中学校で英語を教えている先生が小学校の英語もまた支援ができるとか、そんなことなども考えられると思います。それから、まだ若い小学校1、2年生と中学生との年齢を超えたお互いの交流というか、子どもたち同士の助け合いとか、そういったことも教育上非常に効果があることだと思えます。ですから、そういったメリットが活きるようなかたちの学校を構想して、小中一貫校という方向性が決まれば、いろいろとできると思えます。

また、地域の側から小中一貫校にしたいというのは、中学校なりが統合されるようなことがないよという思いがあつてのことかなと思いますけれども、小中一貫校にしてどんな良いことを地域として求めていくのかについての積極的な意見とか、またそれを支えていこうという熱い気持ちがあることが、小中一貫校が成功するというか、本当に具体化され、あるいは大きな効果をあげていく上で重要だと、私は思うんですね。鳥取市内で公立の小中一貫校があるのは吉岡の湖南学園で、これが唯一の例です。やっぱり地域のかたが非常に教育に熱心だし、何て言うんですかね、そういう小中一貫校に対する熱意というものが感じられるように思います。小中一貫校にすると、そこに行きたいという子どもがありましてね、ですから湖南学園には他の校区からの転入も認めていて、何人かの子どもたちが来ているんですよ。だから福部の小中一貫校もいろんな意味でメリットの活かし方を大いに地域でも考え、教育委員会でも検討して、その両者の話し合いの中で築き上げていくことが必要なんだと私は思っています。

そういうことの中で、より発展する学校に持っていくと、福部でも昨今住宅団地の販売も行っていますから、こっちに移り住んで子どもを小中一貫校に通わせようというよ

うな家庭も出てくるかもしれません。地区外からも転入できる制度にきつとなると思いますので、湖南の例を考えると、そういったことも本当に生きてくるような特色を持った学校として成り立つのかどうか見極めることが重要というふうに、私なりに理解しています。

それから、もうひとつは地域との結びつきですね、福部の子どもたちは修学旅行に行ってもらっきょうの小袋を宣伝していますが、これは鳥取市でも他の地域にない大変素晴らしい活動だと私は思っていますし、らっきょう・花マラソンには、中学生なんかは無料で全員出るような格好にしたらどうかと、まあ全員でなくてもいいんですが、そういったようなことをずっと言い続けております。地域との結びつきを深めたいというのが私の思いです。きつと小中一貫校になった場合、そういうこともよりできやすいと思いますので、ぜひ、そういったことを地域の方でも構想していただきたいし、教育委員会に働きかけていただきたいなと思います。

そういう意味では、こういうものを地域づくり懇談会のテーマとして出されたからには、地域独自でいろんなことを考え、検討する、こういったことが必要になってくるんじゃないかと思います。また教育長も教育委員会も、それを期待しているとは言えないかもしれませんが、回答で、地元でもいろいろと考えて機運を盛り上げていただく必要があるということをおっしゃっています。私の立場から地域の皆さんに申し上げたいのは、そういったことを本当に実現しようという思いを強く持っておられるのであれば、やはりそこは具体的に検討していく、何らかの取組みがこれから地域に求められると思います。そう感じておりますので、何かご意見があれば伺いたい。どういう小中一貫校にしたい、どういうことをしたいんだとか、そのために地域の中で大きな輪を広げていくことができたというふうな思いが、ここにお集まりの皆さんにおありでしょうか。

(地区会長)

これは個人的な考えですけれども、小中一貫校にした場合ですね、例えば9年間卒業した後は、小中一貫校を卒業した生徒は、少なくとも日常的な英会話は誰でもできるという学校にするというのもひとつの方法じゃないかなと思っています。

それから学校支援ということにつきましては、現在もやっております。どの地域もそうかもしれませんが、福部はボランティア精神と言いましょか、これがわりと上手くいってまして、いろんなお手伝いをしておるといふ現実があります。例えば環境整備とか、それから特殊な技能を持たれたかたがクラスに出かけて行って授業をされるということもやっています。学校に関しては地区のいろんな人もけっこう関わっておられるというのが、現在の福部の小中学校だと思っています。

(教育長)

福部の子どもが英語ができるようにね。非常に良いことだと、私は思います。実は小学校と中学校に区切れを入れることなく、連続して教育をしていくと、いまおっしゃったようなこともさまざまに工夫ができると思うんですね。例えば小学校と中学校の教員が違う建物で勤めていると、基本的には小学校は小学校、中学校は中学校だけでしか教



えられないですね。ところが、ここで兼務辞令、どちらの学校も勤められますよという辞令をもらうと、小学校とか中学校関係なく授業ができますし、子どもの指導も当たり前でできるわけです。そうすると、9年間を一括りにして授業や教育を組立てていくことができるわけですから、いまとは違う動きがそこに生れてきます。おっしゃったように、英語の力がつくよとか、いや、うちは理科の方をやるからとか、あるいは音楽の方をやるからとか、いろんなことができると思いますね。さまざまに工夫をされると面白いと思います。もちろん小中一貫という道を福部の皆さんが取られたときの話ですけどね。

(地元意見)

昔から福部の子どもは高校に進学したら、なかなか芽が出ない。学力はあるんですけど、体力やスポーツ面で伸びがないと言いますか、井の中の蛙というような地域であると思います。市に合併をして少しは変わるかなと思いましたが、あんまり変わらない状態です。国府も同じような課題があると思いますが、岩美郡のときは、小規模でありますけど、いろんな交流大会がありまして、非常に活発だった方でした。逆にいまは広がって、そういう交流の場も少ないです。その辺で勉強でもスポーツでも、もっと交流を定期的にやって、もう少し活力を出していただきたいです。

(教育長)

私も知っております。昔は岩美郡の、郡としてのスポーツとか陸上の大会など、いろんなものがありましたね。ところが括りが今度は鳥取になりました。ですから、いわゆる鳥取の方、西側の方に向けて大いにアタックをしていくべき部分じゃないかなと私は思っております。学校長や先生がたを含めて、そのあたりをまたさまざまに工夫をしていただけたらと思います。子どもたちの気質によるところもありますが、どうでしょうかね。これは学校だけで育て上げていくものだけだとは私は思っておりませんで、これもいろんな仕組みを考えていただくと面白いなと思っております。そういう機会を、やはり学校も含めてになりますけれども、またお考えをいただきたいと思ひますし、もちろん教育委員会サイドでも福部の子どもに限らず、多くの学校の子どもたちに対して、やはりそういう指導というのはこれから求めていく必要があると私は思っております。

(竹内市長)

私も郡単位の運動会とか、体育大会みたいな話はよく聞いています。八頭郡の方でもあったということを知っています。私は岩美町と何かされるのも良いと思いますが、例えば同じ郡内だったら国府町ですね。商工会でも鳥取東商工会という単位で、一つになってやっていますが、例えばそういったことも含めて、いろんな可能性があると思ひます。また旧岩美郡の枠に拘ることなく、近隣の小学校あるいは中学校との交流があつていいと思ひます。中学校のスポーツの大会では、たしか福部と佐治でしたかね、一緒になって野球のチームを作つてというような話も聞いたことがありますが、佐治ではなく、他の組み合わせも考えられるんじゃないかと私は思っています。中体連の扱いの関係を

また議論する必要があるんだと聞いていますが、いずれにしても、いま教育長も話していましたが、この福部の地域と近隣あるいは北部などの地域の学校との連携をいろいろ考えてみる可能性があると思いますので、町外との交流が少なくなったのではないかとというようなご指摘に対してお答えができるように、セットしてもらいたいと思っています。

それから、小中一貫校にちょっと戻りますと、小学校と中学校が一緒になって行事をすることがどれくらいあるのか、はっきり確認してきておりませんが、運動会とか文化祭とかそういったものを地区の皆さんと一緒にやりながら、一体的にやっていくような取組みも十分考えられると思います。多くの小学校区では地区大運動会などといって、地区の運動会と小学校の運動会が一緒だったりしていますが、地区との結びつきを深めつつ、なおかつ小中学校の垣根を取り払った取組みができるので、大変良いことだと思います。小中一貫校ができるとかできないというのは、校区審議会の議論ですけれども、そこに直接結びつくかどうかは別にしても、小学校と中学校が一体となって、より強力な取組みができるようにするというようなことは、教育上大きな効果があるように私は思いますし、福部町の地域の皆さんとの結びつきを深める大きな契機にもなるかなと思いますので、ぜひそういう学校と地域の結びつき、小中学校のいろんな行事の一元的とか、そういったことをこれからは考えていっていただくのが良いのではないかと感じましたので、申し上げておきたいと思います。

## 7 市政の課題についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

これは福部町だけの問題ではなく、鳥取市全体の問題になってくると思います。三洋CE、鳥取三洋電機さんは、現在パナソニックが買収というか吸収しておるわけですが、かつて鳥取三洋電機さんというのは従業員が1,000人規模ということで、福部町でも数十人のかたが勤務をしておられたという実態があります。それがいろいろ事情があるわけですが、買収を余議なくされ、現在パナソニックが所有して、地域経済にとっても非常にマイナスになっておるんです。また、現在、工場の跡地がそのままになっています。県市とも跡地利用と言いましょか、跡地対策と言いましょか、このことについていろいろご苦心なさっておられるのは大変よく理解をしておるわけですが、具体的に現状と、それから何か対策みたいなものを考えておられるのであればお聞かせいただきたいなと思います。また、いずれは従業員が数百人単位で確保できるような会社を誘致して、また雇用が生まれるということになれば一番いいんじゃないかなと思うんですが、現状とそれから将来的なことも、もし何かあればお聞かせいただきたいと思います。

（経済観光部長）

南吉方3丁目の三洋CEの工場跡地のことについては、皆さんご存じのように、現在跡地は建物全て解体が終わりまして、地中に埋めてあります建物の基礎でありますとか、あるいは基礎の杭を抜くような作業をしておられます。市民のかたから、何かまた新しいものを造るために杭を打っているんかいなというご質問を受けたりするんですけど

も、あれはそうではなくて、現在すでに打ってある杭を抜くために大きな機械が入っているという状況です。来年の3月までにはそういった抜き取り作業も全て終わりにして、きれいな更地になる予定です。

その後、三洋CEと親会社のパナソニックは、当該土地を売却したいという意向だと聞いております。それで、私どもといたしましては、県とも協議を重ねておりますけれども、当該の土地は全部で面積が4.5haと非常に広く、また上下水道はもちろん、工業用水も整っておる、非常にインフラが整備された工場立地に向けた土地でありますので、製造業に限ったわけではございませんけれども、何らかの工場、あるいは他の事業所でもいいんですけれども、そういったところを誘致したいところです。今後も県と協議を重ねながら、いろんなところと折衝をしていきたいと考えています。

(地元意見)

きょうの資料の中に砂の美術館のチラシも入っておりますが、これに関連して、砂丘周辺の駐車場の整備の話です。前回の区長会でも、この公民館の近くに駐車場の整備をするという計画が、軟弱な地盤ということでできなくなったという話があったと聞いております。それで、ピーク時には600台ですか、駐車場が不足するというような結果が出ておりました、引き続き、砂丘周辺を検討していくというような言葉が市長からあったと思います。駐車場の整備に向けてご検討をお願いしたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

(経済観光部長)

この総合支所の裏の駐車場の整備計画につきましては、只今のご質問の中で触られましたように、今年度の予算で調査をいたしました、軟弱地盤ということで工事が非常に難しく、莫大な経費がかかるということで、別の場所を探そうじゃないかということになり、現在検討しておりますのがこのスクリーンに映っている場所です。一番上に駐車可能台数が308台



と書いてあるところがあります。ちょうど現在の砂の美術館の上の方になりまして、現在は松林、山林ですが、砂丘センターの駐車場の隣接地です。そこを何とか駐車場として整備できないのかなということで、今年度の予算で調査費を計上いたしまして、そこを駐車場にしたいなという思いでおります。

それ以外に、一番下に三角形のところがありますけれども、これがお種弁天のところ、この保安林を解除いたしまして、70台分の乗用車対応の駐車場を現在整備しております。12月21日が工期となっておりますので、何とか12月20日前後には、

そこを使えるようにいたします。お正月にお種弁天に参拝されるかたもいらっしゃいますし、また比較的砂の美術館に近い駐車場ですから、そちらも使っていただけるのかなというところです。

ゴールデンウィーク等が一番駐車場が不足するわけですがけれども、本年度調査いたしましたところ、最大3,000台の駐車スペースが必要になるということです。現在、砂丘周辺には市営の駐車場、それから民間のお土産物屋さん等の駐車場も合わせて1,000台分ございます。それから、それに加えて臨時の駐車場といたしまして、オアシス広場ですとか岩戸海岸のところの駐車場、またこの福部町総合支所の駐車場、これらが1,355台ございますので、合わせて2,355台、従いまして、645台分が不足しているという状況です。そうした中で、いまご説明いたしましたこの弁天さんの所の70台と、それからその上の308台、当面は308台で、これから調査をしたいなということで進めておりますけれども、そういうようなことで、何とかこの不足を少しでも解消するような考えでおるところです。

(地元意見)

福部にすなっこ園っていうのができておりまして、非常に良いことだと思いますけれども、すなっこ園の前は、幼稚園は非常に良い施設を持っておったわけです。幼稚園が前の保育園の中に入っております、質がどうかと思っておりました。7月25日に現地視察をしてみますと、遊戯室の横に多目的室があり、子どもはそこにおりまして、前より教育環境が非常に悪くなったなという気がします。その日は非常に暑くて、子どもはぶるぶる汗でした。それで、山陰地方としてはこれから冬にかかりますので、外で遊ぶってことは非常に難しいわけですね。これまでは遊戯室とその隣りあった多目的室でストレスなんかを発散しておったわけですね。ところが幼稚園がその多目的室に入っておりますので、遊戯室で遊戯をしますと、幼稚園の子どもは本を読んだりしていてもやかましいです。それから人が増えたのに部屋が減るということは、私としては何かおかしいっていうか、子どものためによくはないじゃないかというような気がしております。何か改善する方法があれば、してあげた方が良いのではないかなと思って帰りました。

(支所長)

幼保一体化で、すなっこ園と現在なっておりますけれども、その状況を見てのご意見です。きょうは福祉関係の部長がまいっておりませんので、その内容につきましては伝えまして、また改めて回答するようにさせていただきたいと思っております。

(竹内市長)

幼稚園と保育園が一体的にひとつの建物にあって、少し窮屈な面があるというご指摘ですが、地域との話し合い、保護者との話し合いを通じて、市としてもいろいろ検討した結果でありますので、何か不都合な点や、スペースを含めて教育、保育の環境として十分でない点があれば、また何らかの改善を図っていくということにさせていただきた



と思います。いまは幼稚園と保育園一体の施設として、保護者のかたがどちらでも選択して入園させられるという仕組みがかなり増えてきております。鳥取市内でいえば河原町とか鹿野町、あるいは鳥取地域の中でも、子ども園的な発想ですが、幾つか保育園と幼稚園を併設するようなケースがありまして、そういったかたちの教育施設の整備が進められているような状況です。以前に比べて段々と子どもたちが少なくなっていくような傾向もあったりする中で、そのような状況があります。

また、福部村の時代は鳥取市内の保育園に入園させることができませんでしたけれども、いまは同じ鳥取市なので、福部町の子どもたちが旧市内を含めた他の地域に入園することも当然できているわけで、いろんな選択ができるようになっています。より勤務先に近い保育園を選ぶかたもおられると思います。

そして、元の幼稚園の利用についても議論されているように聞いております。放課後児童クラブに使うとか、そういったことも検討されているうちのひとつだと理解しています。そういったことも含めて、施設の有効利用もまた考えていくテーマとなると思います。ご指摘の点については担当部局に伝えたいと思います。

#### <補足：児童家庭課>

すなっこ園の園児数（H24年11月現在）89名に対して、遊戯室面積は121.2㎡で、一人当たりの面積は1.36㎡です。幼保一体型の施設として、他に河原町のあゆっこ園、鹿野町のこじか園がありますが、一人当たりの遊戯室の面積はそれぞれ1.39㎡、1.28㎡となっております。また、園児数が同程度の津ノ井保育園、千代保育園の一人当たりの遊戯室の面積はそれぞれ0.82㎡、0.92㎡となっております。

旧福部幼稚園は園児が減少していたため、子どもの集団性の維持や財政面での単独施設の維持が困難になることが予想されました。このため、福部保育園を改修し、平成24年度に幼保一体型施設として開設したのですが、他の園と比較して著しく遊戯室の面積が狭いとは考えておりません。

すなっこ園では年齢の大きな園児と小さな園児の遊ぶ時間を分けるといった取り組みをしており、現場としても遊戯室を工夫して使っております。また、幼稚園児が入っている教室に遊戯室からの音がもれてくるとは聞いておりますが、まずは現場の先生の意見を聞いて、対処できることがあれば検討したいと考えます。

## 8 市長あいさつ

こうして毎年福部の皆さんとお話をする中で、いろんな課題についての理解を深めたり、取組みについての実情をご理解いただいたりしているところです。地域づくり懇談会を通じて、鳥取市政と言いますか、市役所との関係もより緊密なものとなり、協働のまちづくりが支所も含めて積極的に行われるようになることを願っているところです。

これから鳥取市でも12月4日から、市議会の12月定例会が始まります。先ほど経済観光部長が話しておりました駐車場の計画なども、そこで議会に諮って予算を付けて調査検討を進めていくという流れで考えておりますが、今度12月議会の一番大きなテーマはきっと市庁舎の整備についてだと思います。

住民投票が5月20日に行われ、その結果を受けた市議会の調査特別委員会がずいぶん回数をもって議論をしていますが、なかなか方向づけがはっきり出てきません。また検証作業とって、実際に提案され、住民投票で一番大きな数の票を獲得した現地での耐震改修案が、本当に20億円でできるのかという、かねてからの議論があった点について、日本有数の建築の専門設計事務所が調査した結果、提案されている通りに実現することはできないと。費用とか内容とか工期の面で、そういったことではできないことがはっきりしたという新しい事態を迎えておまして、今後改めて、いろんな議論が出てくるだろうという状況になっております。

鳥取市の将来を見据えて、庁舎をどうかたちにすればいいのか。これは我々の時代だけではなくて、次の世代、あるいはその次の世代も関わってくる、明日の鳥取市に関わるようなテーマでもありますので、十分じっくり検討をして、正しい答を出していくといったことが必要になろうかと思えます。放っておける課題じゃありません。議会の議論を十分見極めた上で、私としても責任を持って、この課題について検討していきたいと思えます。小学校や保育園の耐震化などについて、いろいろ検討したり調査したりして取り組んでおりますけれども、市庁舎には防災対策とか、災害時の応急のいろんな業務があります。それと同時に、災害時、あるいは災害が終わったあと、その市役所の機能が、ちゃんと維持継続できるものではなければ、市民の皆さんにご迷惑をかけることとなります。そういったことも含めて、市庁舎の耐震化については市政の課題のところでも述べておりましたが、逃げて回ることができるような課題じゃありませんので、長い時間をかけてきたこれまでの議論を踏まえて、今後の取組みを方向づけていくようなことを行政でやろうと思えます。その点もひと言ご報告をしたいと思います。

そうした課題も含めて、いま一番厳しい課題は、市民の生活をどのように支えていくのかということです。高齢化が非常に進む、あるいは企業の事業再編が進むという中で、雇用の問題、あるいは若い人が就職して定住ができるかといったような問題が一番切実な市民の課題ですので、鳥取市は県内の他の市町村よりも、遥かに企業誘致とか、新しい働き場の開発などに力を入れて取り組んでおります。成果も一部出てきていると感じておりますが、これで満足することなく、引き続きしっかりと地域の住民、市民の皆さんの生活を支える基盤としての産業について、力を入れて取組みを進めていきたいと思っております。これは農林水産業、製造業、サービス業など全部入れてのことです。

グリーン・ツーリズムとか、特産品などを作って販売するといった福部としての取組みを、引き続き、福部町のいろんな地域で取り組んでほしいと思えます。それと同時に、鳥取市全体として、市民の皆さまのいろんなニーズ、働く場もそうですし、医療福祉もそうですし、買い物の利便性とかそういったこともあるわけですが、ぜひともいろいろ頑張っていきたいと思えます。皆さんから地域の声をいろんなかたちで総合支所へ伝えていただくことも大事だと思えます。市長への手紙という制度もあります。私が直接見て、担当と協議してお答えしていますので、ぜひご活用ください。きょうは長時間に亘って、福部地区の地域づくり懇談会にご参加いただきまして、大変ありがとうございました。心から感謝を申し上げて終わりのご挨拶にしたいと思います。どうもありがとうございました。